



## 議題 4

報道機関 各位

記者発表資料  
平成24年5月31日(木)  
問い合わせ先：健康教育課  
担当：清水・堀  
電話：829-1679  
内線：4099  
問い合わせ先：指導1課  
担当：浅野・西谷  
電話：829-1661  
内線：4064

「保健学習におけるAEDの使用を含む心肺蘇生法の指導の手引き」を作成し、訓練用AED等を配備しました

さいたま市教育委員会では、心肺停止に陥った人に遭遇したときに、適切な応急手当を行うことのできる生徒を育成するために、「保健学習におけるAEDの使用を含む心肺蘇生法の指導の手引き」を作成し、市立小・中学校等に配付するとともに、訓練用AEDと心肺蘇生訓練用人形を市立全中学校57校に配備しました。

これにより、市立全中学校では、実習計画を作成し、AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を始めます。詳細は下記のとおりです。

### 記

#### 1 内容

- (1) 市立各中学校は、保健体育科保健分野の学習を中心に、AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を行います。
- (2) AEDの実習を伴う応急手当に関する学習を、保健学習の年間指導計画へ系統的に位置付け、継続的に進めます。

#### 2 訓練用AED及び指導の手引きを活用した実技研修会の実施

- (1) 日 時：7月4日(水)14時00分から
- (2) 場 所：さいたま市消防局 3階講堂
- (3) 講 師：国土舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授 田中秀治 氏(医学博士)
- (4) 対 象：中学校保健体育科教員等

保健学習における  
A E Dの使用を含む  
心肺蘇生法の指導の手引き

平成24年4月  
さいたま市教育委員会

# 保健学習における A E D の使用を含む心肺蘇生法の指導の手引き

## ( 1 ) 経緯

平成 23 年 9 月 29 日、さいたま市立小学校 6 年生の児童が駅伝の課外練習中に突然倒れ救急搬送された後、翌 30 日に死亡するという事故が発生した。教育委員会では、この事故を重く受け止め、「さいたま市立小学校児童事故対応検証委員会」からの提言を受けて「学校における児童生徒事故の再発防止対策」を実施することとした。

その中で、

「保健学習における A E D の使用を含む心肺蘇生法の指導の手引き」を作成する。

ことを示した。

各学校においては、本方策の趣旨を十分理解するとともに、保健学習における A E D の使用を含む心肺蘇生法の指導を着実かつ計画的に実施し、学校の安全度を一層高めていただきたい。

## ( 2 ) 学習指導要領上の取扱いについて

今回の改訂では、小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、児童生徒の発達段階を踏まえて保健学習の内容の体系化が図られた。この点を踏まえ、さいたま市では、A E D の使用を含む心肺蘇生法の指導についても、系統的な指導計画の作成に十分配慮することとした。

学習指導要領・学習指導要領解説における「A E D の使用を含む心肺蘇生法」に関する取扱い

小学校学習指導要領 「G 保健」 - 「( 2 ) けがの防止」

( 2 ) けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。

イ けがの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

【解説より】 (前略)ここでは、すり傷、鼻出血、やけどや打撲などを適宜取り上げ、実習を通して簡単な手当ができるようにする。

【さいたま市】さいたま市では、さらに、大きなけが等の場合を想定し、「近くの大人に助けを求められることができる」、「A E D について理解を深めることができる」ようにする。

中学校学習指導要領 「保健分野」 - 「( 3 ) 傷害の防止」

( 3 ) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。

エ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生法があること。

【解説より】 (前略)また、心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫などの心肺蘇生法を取り上げ、実習を通して理解できるようにする。なお、必要に応じて、A E D (自動体外式除細動器)にも触れるようにする。

【さいたま市】さいたま市では、中学校第 1 学年で、A E D の使用を含む心肺蘇生法の実習を行う。さらに、第 2 学年・3 学年でも、可能な限り実習を繰り返し、一層の定着を図る。なお、実習は、J R C 蘇生ガイドライン 2010 に基づいて行うものとする。

J R C 蘇生ガイドライン:日本救急医療財団と日本蘇生協議会(JRC)で構成するガイドライン作成合同委員会が、国際蘇生連絡委員会(ILCOR)による 2010 Consensus on Science with Treatment Recommendations (CoSTR)に基づいて作成した救急蘇生のためのガイドラインである。

(財団法人 日本救急医療財団ホームページより)

高等学校学習指導要領「保健」 - 「(1) 現代社会と健康」

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする

オ 応急手当

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。

【解説より】 (前略) 心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であることを理解できるようにする。その際、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫などの原理や方法については、実習を通して理解できるよう配慮するものとする。なお、指導に当たっては、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。また、「体育」における水泳などとの関連を図り、指導の効果を高めるよう配慮するものとする。

【さいたま市】 さいたま市では、高等学校入学年次において、可能な限り、AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を行い、一層の定着を図る。

資料

# 心肺蘇生法

胸骨圧迫や人工呼吸をおこなうことを心肺蘇生といいます。

心肺蘇生の流れ  
< 傷病者の発生 >

安全の確認

反応を確認する

反応がない

大声で叫び応援を呼ぶ

119番通報・AEDの手配

呼吸確認

正常な呼吸(普段どおりの呼吸)をしているか

していない

直ちに胸骨圧迫 30回

+

気道確保して人工呼吸 2回

している

回復体位

様子を見ながら救急隊を待つ

ポイント1

心肺蘇生開始後は、  
救急隊等に引き継ぐ  
正常な呼吸が出る  
目的のある動作をする まで実施する。

ポイント2

心肺蘇生は、協力者がいれば、  
1~2分間を目安に交代します

参考 119通報をすると電話を通してあなたが  
行うべきことを指導してくれます。  
心肺蘇生の訓練を受けていない場合でも、  
落ち着いて指示に従ってください。

さいたま市消防局 応急手当講習テキストから抜粋

(3) さいたま市が目指す児童・生徒像

中学校第1学年段階で、全ての生徒がAEDの使用を含む心肺蘇生法を行うことができる。

【平成24年度 さいたま市立学校における応急手当の学習に関する指導計画】

さいたま市では、中学校第1学年段階で、全ての生徒がAEDの使用を含む心肺蘇生法を行うことができるようにするために、系統的・計画的に、発達の段階に応じた「応急手当の学習」を実施する。

指導に当たっては、さいたま市が作成した「さいたま市立学校児童生徒事故等危機管理対応マニュアル作成指針」及び各学校の「学校における児童生徒事故の再発防止対策」の目的を十分理解し、全ての児童生徒が、事故発生時に最善の行動を取ることができるよう、実習や訓練等を積極的に学習活動に取り入れていく。

<学習指導の計画>

学校・学年	応急手当・AEDに関する指導内容	【AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習】
小学校 第5学年	体育科 G保健 (2) けがの防止 ・大きな声で助けを求める。 ・AEDについて知る。 ・AEDの設置場所を知る。	イけがの手当 平成24年度以降、第5学年は、「けがの手当」で学習する。
小学校 第6学年	体育科 G保健 (3) 病気の予防 ・健康を守る活動の一つとして位置付け、第5学年と同様に学習する。	オ地域の様々な保健活動の取組 平成24年度以降、第6学年は、「病気の予防」で学習する。
中学校 第1学年	保健体育科(保健分野) (1) 「心身の機能の発達と心の健康」 ア 身体機能の発達(呼吸器系、循環器系) 総合的な学習の時間 特別活動 など	入学後早い時期にAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を行う。 平成24年度は、保健分野を中心に、平成25年度以降は、保健分野で実習を行う。
中学校 第2学年	保健体育科(保健分野) (3) 「傷害の防止」 エ 応急手当(心肺蘇生法等) 総合的な学習の時間 特別活動 など	平成24年度は、保健分野を中心に、AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を行う。 平成25年度以降についても、知識と技能の定着を目指し、可能な限り実習を行う。
中学校 第3学年	保健体育科(保健分野) 総合的な学習の時間 特別活動 など	平成24年度は、保健分野を中心に、AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を行う。 平成25年度以降も、知識と技能の定着を目指し、可能な限り実習を行う。
高等学校 入学年次	保健体育(保健科目) (1) 「現代社会と健康」 オ 応急手当(ウ)心肺蘇生法等 課外活動 (部活動員やマネージャー、生徒会活動)	平成24年度は、保健科目を中心に、AEDの使用を含む心肺蘇生法の実習を行う。 平成25年度以降は、知識と技能の定着を目指し、可能な限り実習を行う。

## 小学校第5学年「けがの防止」の指導例

### 1 単元名 けがの手当（保健）



### 2 本時の学習と指導（4 / 4時）

#### （1）ねらい

- けがの防止について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習活動に進んで取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- 自分のできる応急手当について、実習を通して考えたり、判断したりすることができるようにする。 【思考・判断】

#### （2）準備 掲示資料、ワークシート、消毒薬、ガーゼ、ピンセット、氷のう、洗面器、AED（1台）

#### （3）展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（指導 評価規準）	資料・用具 評価方法
導入 8分	1 これまでに自分や友達がけがをしたときに、どのような対処をしたことがあるのかを発表し合う。	本時では、けが人が出たときにどのように対処したらよいのかを学習し、さらに自分でできる手当について練習することを知らせる。	
展開 30分	2 本時の課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大きなけがの場合には、どのような行動をとればよいのだろう。</div>		 ワークシート AED 掲示資料   行動観察 発言
	3 けが人が出たときに、まず何をしたらよいのかを話し合う。	教科書の図を参考にして考え、ワークシートに記入させ、その後、話し合うようにする。	
	4 大きなけがの場合はどうしたらよいかを考える。 ・AEDの目的 ・AEDの設置場所 など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「人がたおれています。さん、119番お願いします。」</div> ・救急のときの通報の仕方を練習する。 グループ練習 全体 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「さん、AEDを持ってきてください。」</div>	教科書の図を参考にして考え、ワークシートに記入させ、その後、話し合うようにする。 大きなけがの場合について、どうしたらよいかを考えさせる。 AEDを実際に見せ、その効果を理解させるとともに、すぐに大人の人を呼ぶことが救命のスタートであることを知らせる。	
	5 簡単なけがの場面を想定して、実習する。	小学生でも社会の一員としての役割を担っていることに気付かせる。 救急のときの通報の仕方の練習を進んで行おうとしている。 【関】 グループで交代しながら、正しい手当ができるようにさせる。	
整理 7分	6 本時の学習のまとめをする。 ・分かったことや感想を記入する。 ・発表する。	ワークシート記入時には、積極的に机間指導を行い、児童の記入内容を確認し、個別に言葉を掛ける。 実際にけがをしたときに、練習したことが生かせるよう、落ち着いて対処することが大切であることを助言する。 自分のできる応急手当について、実習を通して考えたり、判断し、それらを表している。 【思・判】	ワークシート 発言

### 3 備考 実際に、校内のAED設置場所に行き、実物を確認する。

（イラスト・写真 「みんなの保健 5・6年」 学研教育みらいより）

中学校第1学年「傷害の防止」(応急手当の意義と実習)

1 単元名 「傷害の防止」(応急手当の意義と実習)

2 本時の学習と指導(1/2時間)

(1)ねらい

応急手当の重要性に気付き、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】  
中学生でも適切な手当ができることを理解することができるようにする。 【知識・理解】

(2)準備 掲示資料、ワークシート、AED(1台) 付箋紙

(3)展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点(指導 評価規準)
導入 10分	1 発問1 「A君の前を歩いている人が急に倒れてしまいました。あなたがA君ならどうしますか。」	発問に対して、真剣に考えさせる雰囲気をつくる。 自分のできることを考えさせ、ワークシートに記入させる。
展開 30分	2 本時の課題 倒れている人を見たとき、私たちには何ができるのだろう。	
	3 発問2 「A君は大丈夫か様子を見て、自分のできることを始めました。」何ができるとおもいますか。 ・KJ法で班の意見をまとめる。	付箋紙を配付し、個人で自由な意見を書かせ、その後、班で意見をまとめさせる。(KJ法) その場に居合わせた人が適切な手当をしなければならないことに気付かせる。
	4 発問3 「心肺蘇生法とAEDとは何か、また、その手順と使い方を知っているか」	心肺蘇生法の意味とAEDの効果を理解させる。  応急手当の重要性に気付き、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 【関・意・態】
	5 心肺蘇生法の手順とAEDの使い方の説明をする。 ・ワークシートに手順を記入させる。 電源を入れる 電極パッドを倒れている人に貼り付ける。 コネクタを差し込む。 指示に従い「電源ボタン」を押す。 (器械によっては手順を省くものもある)	心肺蘇生法の手順について、理解させる。 AEDの適切な使用法について、実物を見せながら説明し、理解させる。
整理 10分	6 本時のまとめ ・ワークシートに感想を記入し、発表する。 7 次回の予告 ・心肺蘇生法の実習を行う。	適切な応急手当は命を救うことを知らせる。 中学生でも適切な手当ができることを理解している。 【知・理】



(4)その他 資料及び配慮事項

- ・心肺蘇生法の手順とAEDの使い方については、ビデオ視聴もよい。
- ・中学生が応急手当を行い、命を救った等の新聞記事があるとよい。

3 本時の学習と指導 ( 2 / 2 時間 )

( 1 ) ねらい

仲間と協力し、意欲的に実習に取り組むことができるようにする。

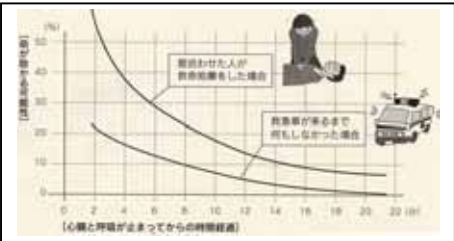
【関心・意欲・態度】

応急手当について、実際の場面を想定して考えることができるようにする。

【思考・判断】

( 2 ) 準備 ワークシート、訓練人形レサシアン ( 6 体 ) 訓練用 A E D ( 6 台 ) アルコール、脱脂綿

( 3 ) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 ( 指導 評価規準 )
導入 10 分	1 発問 「次の図は何を示しているのでしょうか？」 (ドリンカー救命曲線：心臓と呼吸が止まってしまっからの時間経過と命が助かる可能性の相関図)	図 1 を提示し、素早い応急手当が必要であることを理解させる。  ・救急車が到着するまで、全国平均で 6 分以上かかる。  < 図 1 さいたま市消防局応急手当講習会テキストより >
展開 30 分	2 本時の課題 中学生でも適切な手当てをすれば、人の命を救うことができるのだろうか。  3 心肺蘇生法の手順の確認 ・教師は、大きなジェスチャーで演示を行う。 4 班に別れ、心肺蘇生法の実習を行う。 < 役割分担 > ・実習者・応援者 ( 救急車要請 ) ・時計係・手順確認係 < 手順 > 周囲の状況の観察 意識の確認 応援の要請 ・ 1 1 9 番通報、A E D の手配 呼吸の確認 胸骨圧迫 ・人工呼吸ができる場合は、30 : 2 で胸骨圧迫と人工呼吸を加える。 A E D の装着 ・心電図解析・電気ショック	教師が模範を行い、前回のワークシートを用い、手順の確認を行わせる。 ・全員が訓練人形レサシアンを見られる隊形を工夫する。 全員が実際に想定して、真剣に実習を行う雰囲気をつくる。 順番を決め、より正確に実習が行えるように指導をする。 ・隣の班との間隔を大きくとるなど配慮をする。 ・計時はスピードを競うものではない。あくまでも、発見から A E D の使用までどのくらいの時間がかかるのかを体験させる。 ・手順確認係は、チェックシートを用い、確認させる。  胸骨圧迫を行うリズムは、1 分間に少なくとも 100 回のリズムで行わせる。 A E D の電気ショック後、救急隊に引き継ぐまで、又は傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで、胸骨圧迫から心肺蘇生を続けることを説明する。 仲間と協力し、意欲的に実習に取り組もうとしている。  【関・意・態】
整理 10 分	5 本時の学習のまとめ ・ワークシートに感想を記入し、発表する。	中学生でも知識と技術と人を助けたいという気持ちがあれば、救える命があることを理解させる。  応急手当について、実際の場面を想定して考えている。【思・判】

( 4 ) その他資料及び配慮事項

- ・心肺蘇生法の手順については、さいたま市消防局「応急手当講習テキスト」抜粋を参照する。
- ・訓練人形レサシアンや訓練用 A E D の台数の確保について、近隣中学校や消防局と連携を図る。



## 高等学校入学年次「応急手当」の指導例

### 1 本時の学習と指導

#### (1) ねらい

応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択することができるようにする。【思考・判断】

応急手当の意義や心肺蘇生法の手順を理解することができるようにする。【知識・理解】

#### (2) 準備 ワークシート、訓練人形レサシアン(6体)、訓練用AED(6台)、アルコール、脱脂綿

#### (3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点(指導 評価規準)
導入 10分	<p>1 発問 「運動部活動中にB君が倒れました。あなたはどのような行動をとりますか。」</p> <p>2 発問 「次のグラフは何を意味していますか。」 (ドリンカー救命曲線：心臓と呼吸が止まってしまったからの時間経過と命が助かる可能性の相関図)</p> <p>3 本時の課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を考えることができるか。</p> </div>	<p>素直な気持ちで回答できるようにする。</p> <p>図を提示し、素早い応急手当が必要であることを理解させる。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>・救急車が到着するまで、全国平均で6分以上かかる。</p> </div> </div> <p>&lt;図さいたま市消防局応急手当講習会テキストより&gt; 応急手当の意義を理解させる。</p>
展開 30分	<p>4 心肺蘇生法の手順の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は、大きなジェスチャーで演示を行う。</li> </ul> <p>5 班で、心肺蘇生の実習</p> <p>&lt;役割分担&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習者・応援者(救急車要請)</li> <li>・時計係・手順確認係</li> </ul> <p>&lt;手順&gt;</p> <p>周囲の状況の観察 意識の確認 応援要請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・119番通報</li> <li>・AEDの手配</li> <li>・先生へ連絡</li> </ul> <p>呼吸の確認 胸骨圧迫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工呼吸ができる場合は、30：2で胸骨圧迫と人工呼吸を加える。</li> </ul> <p>AEDの装着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心電図解析、電気ショック</li> </ul> <p>胸骨圧迫</p>	<p>教師が模範を行い、前回のワークシートを用い、手順の確認を行わせる。(DVD等で確認することも可能)</p> <p>全員が実際に想定して、真剣に実習を行う雰囲気をつくる。 役割を決め、より正確に実習が行えるように指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の班との間隔を大きくとるなど配慮をする。</li> <li>・計時はスピードを競うものではない。あくまでも、発見からAEDの使用までどのくらいの時間でかかるのかを体験させる。</li> <li>・手順確認係は、チェックシートを用い、確認させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">心肺蘇生の確認チェックシート内容</p> <p>周囲の安全を確認できる。</p> <p>倒れている人に呼びかけることができる。</p> <p>友人や他人に応援要請ができる。</p> <p>AEDの設置場所を把握している。</p> <p>119番通報で、場所を伝え、口頭指導に従い動くことができる。</p> <p>胸の動きを見て、呼吸をしているか確認ができる。</p> <p>人工呼吸が理解できる。</p> <p>心臓の位置を知り、胸骨圧迫ができる。</p> <p>交代をしながら心肺蘇生を継続してできる。</p> <p>AEDを正しく使用ができる。</p> </div> <p>AED電気ショック後、救急隊に引き継ぐまで、又は傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで、胸骨圧迫から心肺蘇生を続けることを説明する。 応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択している。</p> <p style="text-align: right;">【思・判】</p>
整理 10分	<p>6 本時の学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに感想を記入し、発表する。</li> </ul>	<p>バイスタンダーが、いざという時に安全に配慮しつつも心肺蘇生を遅延なく実践しなければならないことを理解させる。</p> <p>バイスタンダー(bystander)とは救急現場に居合わせた人(発見者、同伴者等)</p> <p>応急手当の意義や心肺蘇生法の手順を理解している。</p> <p style="text-align: right;">【知・理】</p>

#### (4) その他資料及び配慮事項

・心肺蘇生法の手順については、さいたま市消防局「応急手当講習テキスト」を参照する。

# 心肺蘇生法 (Cardiopulmonary Resuscitation : CPR) の流れ

さいたま市消防局「応急手当講習テキスト」抜粋

